

発掘調査の成果

1 枡形

江戸時代末期に描かれた絵図では、枡形の石垣の高さは二間(約4m)とされていましたが、現在の地表面からは3m程度しか残っていませんでした。今回の調査では、現在の地表面から最大で1.5m下にまで石垣が埋もれていることを確認したことから、絵図の記載内容を裏付けることができました。

また、かさ上げされた土の中からは明治時代末から昭和20年頃まで、枡形で製造されていた「米城焼(べいじょうやき)」の窯道具や失敗品が大量に出土しました。昭和25年に行われた米子博覧会の会場整備の時に、現在の高さまで埋め立てられたと考えられます。

2 三の丸

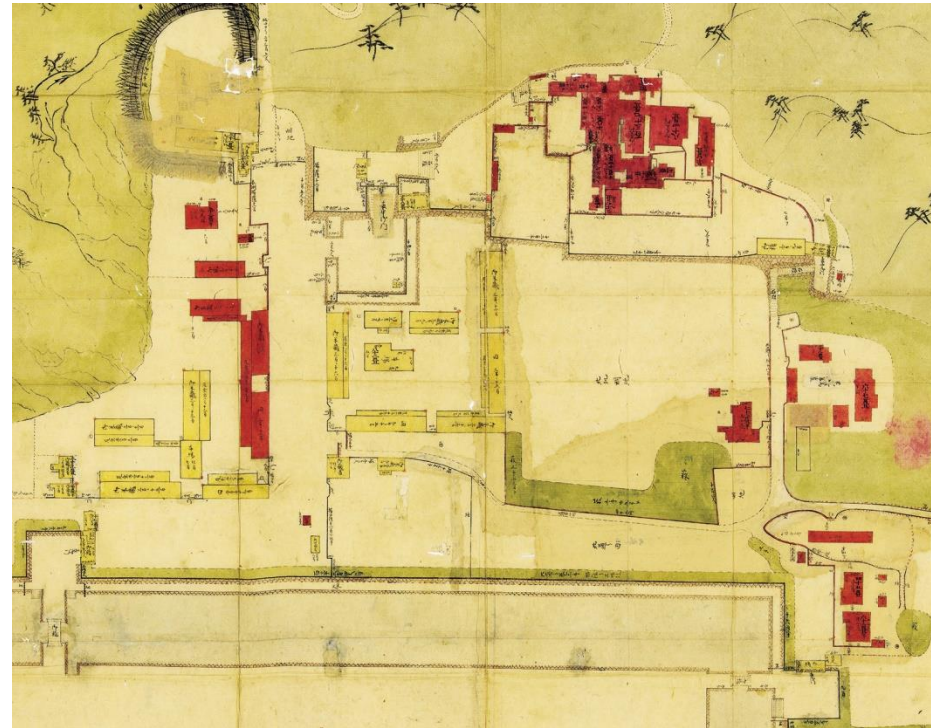
江戸時代の三の丸には、年貢として徴収した米を保管する米蔵の建物が建ち並んでいましたが、明治13年には松江監獄の米子分監が設置されました。監獄所は、米蔵の建物を利用していたと考えられます。そして、大正12年に監獄所が移転した後は、後藤グラウンドとして整備され、昭和28年から湊山球場となりました。

江戸時代の絵図を見てみると、「斗場」と呼ばれる建物を取り囲むようにして、長棟の建物が配置されています。斗場とは、年貢として収められた米を計量する施設と推測されます。米蔵の建物の規模は、大きなもので長さ30m、幅6mもあり、斗場のある広場に向かって「尾垂」と呼ばれる庇が付けられていました。

今回見つかった遺構は、米蔵の建物の基礎と考えられます。建物の基礎は、溝の中に石を詰めて根固めをしたもので、この上に礎石が置かれていたと考えられます。今回の調査によって、米蔵の建物配置が推測できることから、三の丸の整備を行う上で、重要な情報を得ることができました。



史跡米子城跡発掘調査 現地公開2021資料

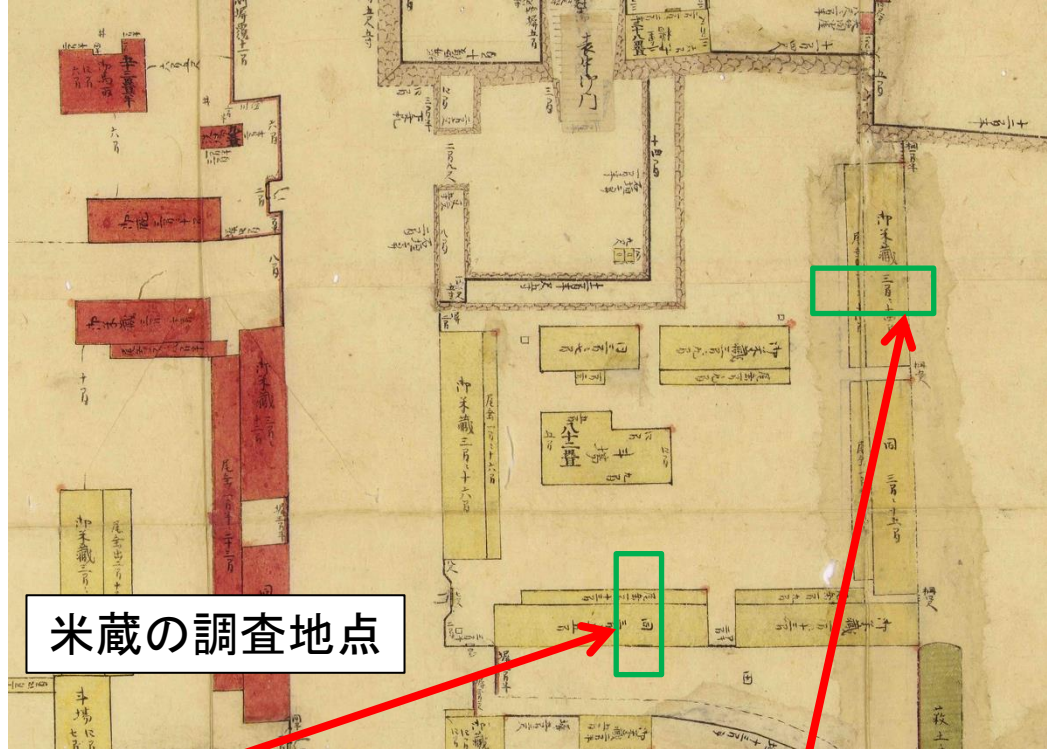


米子城三の丸の絵図(幕末頃)

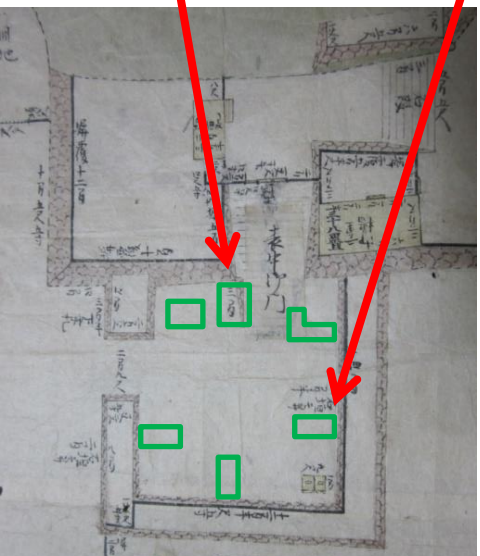
令和3年(2021年)3月27日(土)
米子市文化振興課

・はじめに

米子市では、平成27年から、米子城跡の史跡整備のための発掘調査を実施しています。令和2年度の調査では、枡形の石垣の高さが4mもあることが判明しました、そして、三の丸では江戸時代の米蔵跡を確認することができました。



米蔵の調査地点



枡形の調査地点



駐車場部分の建物基礎



旧野球場部分の建物基礎